

平成19年度 県立下館工業高等学校自己評価表

No. 1

目指す学校像		1 心身ともに健康で、互いを尊重する豊かな人間性を培い、次世代を担っていく人材を育成する学校。 2 工業に関する知識・技術を身に付け、堅実な職業観を持った産業の発展に寄与する人材を育成する学校。 3 生徒の希望する進路の実現を図ることにより、地域から信頼される進学も就職も可能な選択肢の広い学校。				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況		
<p>重点目標の達成状況は5段階評価で3.71であった。前年比0.09アップである。</p> <p>生徒が卒業後、自己の希望進路に進むことができるよう堅実な職業観の育成や進路選択に係る十分な指導もほぼ成された。</p> <p>進路実現は、今後も継続の課題である。更に昨年評価数値の低かった部門についても、総括を踏まえ各々が具体的方策を講じて実動して行く必要がある。</p>		基礎・基本の徹底と個別指導による学力の向上を目指す。	① 授業等の工夫・改善により、学力向上に努める。各教科ごとに生徒一人一人的確な学力診断を行い、それに応じた指導を試みたか。	3.71		
		資格取得実績の確実な伸長を図る。	② 資格取得で県内トップを目指すことにより、ジュニアマイスターゴールドの誕生を目指したか。	3.79		
		進路指導システムの構築による希望進路の達成を図る。	③ 生徒の多様な希望進路に対応できる3年間の進路指導マネジメントシステムを構築し、第1希望の合格率・公務員の合格率アップ、大学進学への拡充を目指したか。	3.61		
		さわやかマナーアップ運動の推進と道徳教育の定着を図り、心の教育を充実させる。	④ マナーアップ運動の推進と心の教育の充実のために、関係部署が連携を密にするとともに全職員で取り組む体制を確立したか。	3.71		
		特別活動の充実と安心・安全な環境づくりを目指す。	⑤ 特別活動の充実を図るために、生徒の活躍できる場を広げる。また、各種の催しを通して地域に情報を発信したか。 ⑥ 学校の教育活動への理解を深めるために、家庭・地域との連携を密にしたか。 ⑦ 各種の安全指導や安全管理、不審者対策等を充実して事故の未然防止に努め事故発生ゼロを目指したか。	3.74		
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題	
教科指導	国語	基礎学力の向上を図る。	小テストを利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒には補習をしたか。	①	4.0	基礎学力の向上を目指す。
			学習内容定着のため、放課後質問および指導の時間を設けたか。	①	4.0	
		国語がわかる喜びを実感できるようにする。	授業内容・方法等について教科内で研究協議したか。	①	3.0	
			大きな声で朗読できるようにしたか。	①	4.0	
	社会	基礎学力の向上を図る。	月1回教科会で問題点について話し合ったか。	①	3.0	視聴覚教材の活用を図る。
			わかりやすい授業を心がけ、小テスト・補講等により理解の不十分な生徒への対応を図れたか。	①	3.0	
		社会がわかる喜びを実感できるようにする。	進路実現に対応した一般常識の定着を図れたか。	①	3.7	
			ノートを定期的に点検して学習の理解度等を把握したか。	①	4.0	
生徒の実態(興味・関心)に即した授業展開を図れたか。	視聴覚教材やIT・新聞・地図・図表等の積極的な活用を図れたか。	①	3.0			
	修学旅行の行き先の地理・歴史・文化等を取り上げ、事前指導の一助としたか。	①	3.3			
				①	3.7	

教 科	数	基礎学力の向上に努める。	1年生の習熟度別授業, 2・3年生の一斉授業での個別指導を通してきめ細かな指導を行ったか。	①	4.0	3.8	継続して, 家庭学習習慣の定着に努める。 効率的な教材開発を行う。	
			ディレクスト, 単元別テスト等を利用して学習の理解度を把握し, 不十分な生徒には補習を実施したか。	①	4.0			
			進学希望者への課外授業等を通して学力の向上に努めたか。	①	4.0			
	学	家庭学習習慣の定着に努める。	問題集を利用して, 家庭学習の習慣をつけさせたか。	①	3.8			
			わかる授業へと改善を図る。	各種研修会に積極的に参加し, 教科会で発表するとともに自己研鑽に努めたか。	①			3.5
	理	基礎学力の向上を図る。	工業高校で学習する上で最低限必要な物理と化学の知識及び学力の定着に努めたか。	①	4.0			
			プリント学習等を利用して学習の理解度を把握し, 不十分な生徒へは補習を実施したか。	①	4.0			
	科	理科の楽しさを実感する授業に努める。	実験を実施することにより理科への興味関心を惹きつけたか。	①	4.0			
			家庭学習の定着に努める。	課題・プリントを提出・点検することにより家庭学習の習慣をつけさせたか。	①			4.0
	英	基礎学力の向上を図る。	プリント等小テストを実施し授業での学習内容の定着を図れたか。	①	4.0			
ノートを定期的に点検し, 学習状況の実態を把握したか。			①	4.0				
長期休業中に課題を与え, 休み明けに課題テストを実施し, 学習の習慣化を図れたか。	①		4.0					
年度当初に外部テストを実施し, 学力の経年比較を行ったか。	①		4.0					
課外を実施し, 進学希望者の実践的学力の向上を図ったか。	③		3.5					
語	授業内容の改善に努める。	「音読」指導の時間を増やし, バランスのとれた授業展開を目指したか。	①	3.5				
		視聴覚教材・PC等の機器を活用し, 多様な学習教材を用いて授業を行ったか。	①	4.0				
		各種研修等に参加し, 自己研鑽に努めたか。	①	4.0				
保 健 体 育	基礎体力および技能の向上を図る。	毎時間の授業の中で体づくり運動を取り入れたか。	①	4.0				
		技能の未熟な生徒や到達目標に達していない生徒に対しては, 段階に応じて個別指導を実施したか。	①	4.0				
	運動の楽しさや喜びを実感できる授業の展開を図る。	ゲームを通して運動量を確保し, 種目の特性を理解できる機会を多くしたか。	①	4.0				
		勝敗を競い合うことの楽しさ, 仲間と協力して達成する喜びが実感できる指導に努めたか。	①	4.0				
	自らの健康について関心をもち活力ある生活を営む態度を育てる。	喫煙・飲酒・薬物乱用が健康に及ぼす影響について, 学校生活全体を通して徹底指導を図ったか。	⑦	4.0				
朝食を摂る習慣を身につけさせるとともに食生活の改善に努めたか。	⑦	4.0						
家 庭 基 礎	家庭生活に関する基礎的な知識と技術を身につけ, 実生活に取り入れる。	授業への取り組み方, 提出物等の提出状況を確認し, 理解度を確かめたか。	①	4.0				
		授業中にワークシート・プリント・小テスト等を利用し理解させたか。	①	4.0				
	自らの生活に関心をもち主体的に営む力を養う。	実習・実験を通して, 技術力を高めさせたか。	①	4.0				
		ホームプロジェクトを通して, 主体的に取り組む力を身につけさせたか。	①	3.0				
							4.0	今後とも家庭学習の習慣化を図る。
							3.8	夏季休業中のホームプロジェクト学習の充実を図るため事前指導に力を入れたい。

教 科 指 導	美 術	美術を愛好する心情を育成する。	絵画を通じデッサン、色彩、構成、材料や用具の生かし方などの技能の修得を図ったか。	①	4.0	4.0	授業での成果が日常的な拡がりにまで発展するよう努める。
			意図に応じた多様な表現方法の工夫ができるようにしたか。	①	5.0		
		感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。	機能と美しさや楽しさを考えた主題の生成を図ったか。	①	4.0		
			鑑賞に関して、作者の心情や意図と表現の工夫を理解させたか。	①	3.0		
		個性豊かな美術の能力を高める。	デザインを通じ生活を心豊かに想像する主題の生成を図ったか。	①	4.0		
	音 楽	音楽の基本的能力を身につけさせる。	楽曲に沿って音符・リズムなどの練習問題を与え関連性を学ばせたか。	①	5.0	4.3	互いに協力し合いより良いアンサンブル曲を作りあげようとする積極性意欲を養えるよう課題を工夫して行く。
		芸術の幅広い活動を通して愛好する心情を育て豊かな情操を養う。	幅広い音楽的視野を持てるように、民族文化などの背景を学ばせたり、様々なジャンルの曲を聞かせたりしたか。	①	5.0		
			合奏の楽しさを感じさせると共にグループ活動の大切さに気づかせたか。	①	3.0		
	機 械 科	将来のスペシャリストの育成を図る。	指導計画に基づいたわかり易い授業の展開を図ったか。	①	4.2	4.2	設備が不十分なので更新、充実を図りたい。 資格取得の更なる奨励と指導の工夫が必要である。
			基礎・基本を充実させ先端技術を取り入れた設備の更新・充実を図ったか。	①	3.9		
		基礎学力の向上を図る。	小テストを実施し、生徒個々の基礎学力の向上を図ったか。	①	4.2		
			授業の内容が完全に理解できるように、生徒に課題提出や補習等を実施したか。	①	4.3		
標準テスト（機械工作）の平均点は60点以上を取れるように継続的な学習の定着を図ったか。			①	4.3			
資格取得実績の確実な伸長を図る。		資格取得（2級ボイラー技士）の合格数で県内トップを目指したか。	②	4.1			
		資格取得（危険物試験）の合格率で県内トップを目指したか。	②	4.1			
	生徒の資格試験の合格率を上げるため、放課後の補習を行ったか。	②	4.3				
電 気 科	基礎学力の向上を図る。	授業や実習におけるきめ細かな指導のために、教材研究には担当科目時数と同等以上の時間をかけたか。	①	3.8	3.1	資格取得の指導に工夫が必要である。	
		理解が不十分な生徒に対しては、課題を与えることや補講などで指導を行なったか。	①	3.5			
	資格取得の実績を上げる。	第二種電気工事士試験では合格率85%を目指したか。	②	3.0			
		授業で不足する部分は、放課後の講習で補ったか。	②	3.0			
		第三種電気主任技術者試験のための学習会を開き、合格者を出したか。	②	2.3			
建 設 工 学 科	基礎学力の向上を図る。	小テストを実施して理解度を把握し、不十分な生徒へは補習を実施したか。	①	3.3	3.8	年度途中で欠点者がでないよう、更にきめ細かな指導をする。 資格取得の講習会を更に充実させ、各検定の合格率を向上させる。	
		学習内容の定着のため、放課後に質問の時間を設けたか。	①	3.4			
		きめ細やかな指導を行い、その成果と課題を明確にし、次年度への改善策を検討したか。	①	3.1			
	資格取得実績の向上を図る。	2級技術検定（土木・建築）学科試験の合格者を出したか。	②	3.1			
		計算技術検定・情報技術検定3級の合格率80%以上を目指したか。	②	3.5			
		レタリング技能検定3級の合格率60%以上を目指したか。	②	4.9			
	建築CAD検定3級の合格率80%以上を目指したか。	②	4.9				

教科指導	建設工	競技会に積極的に参加する。	ものづくりコンテスト関東大会（橋梁部門・木材加工部門）の出場を目指したか。	②	4.8	4.1	各種製図コンテストの参加人数を増やす。		
			各種製図コンテストに出品したか。	②	3.3				
	電子科	専門科目の基礎学力・応用の学力の向上を目指す。	基礎理論について、きめ細やかに、そしてわかりやすく説明したか。	①	4.1			4.1	家庭学習の定着を図り基礎学力・応用力をつけさせる。 資格取得のための学習を今年度同様にバックアップする。
			知識の理解度や計算能力の達成度を十分に把握し、授業展開に注意を払ったか。	①	4.1				
			専門科目の演習問題を多く利用し、応用力をつけさせたか。	①	3.8				
			座学と実習を関連させながら、理論と実際の成り立ちをわかりやすく説明したか。	①	4.0				
資格取得を推進する。	様々な資格に関する情報を提供したか。	②	4.2						
	放課後や長期休業期間等に、筆記関連および実技関連の課外授業で生徒のバックアップに努めたか。	②	4.4						
教務	授業時間の確保に努める。	年休・出張の際の授業の振替を促進したか。	①	4.7	4.5	授業時間の確保から年間行事計画を調整する際に行事の再考及び精選を働きかけたい。 職員間のコミュニケーションをより緊密にし職務の質の向上を図りたい。			
		学校行事の配置（設定）等を整備し特別編成時間割を用いて授業時数確保の効率を上げたか。	①	4.6					
	資格取得を推進する。	計算・情報技術検定試験の企画、実施を通して資格取得を推進したか。	②	4.5					
		標準テスト等の企画、実施を通して生徒の基礎・基本となる学力の確実な定着を促したか。	①	4.3					
	校内研修を通して教員の資質の向上を図る。	同和教育等の職員研修会を実施し教育の専門家としての確かな力量の向上を図ったか。	①④	4.2					
		年間を通して発生する課題に対応した職員研修を企画したか。	①⑥⑦	4.3					
教育活動の公表に努める。	学校要覧，学校案内パンフレットを作成し学校生活の実状の積極的な情報提供に努めたか。	⑥	4.7						
生徒指導	「挨拶」「服装・頭髪」等の基本的なマナーを身につけさせる。	朝の立哨指導，服装指導を通して，挨拶の励行や服装頭髪等の改善に努めたか。	④	4.1	3.6	増加するバイク通学者への安全指導の充実。 職員週番への職員間の共通理解と指導の実施。 生徒間のトラブルへの職員間の連携と体制づくり。			
		職員週番（指導グループ）や各学年及び関係校務部との連携で，マナーアップ活動に全職員で取り組む体制を作ったか。	④	3.7					
	社会の一員としてのモラルの高揚に努める。	バイク通学者指導・車体検査・交通講話等を通して，交通安全の意識を高め事故を未然に防いだか。	⑦	3.7					
		盗難の頻発や許し難い器物破損等の行為については，集会（学年・全校）・検査・保護者宛文書，場合によっては警察に協力を依頼するなど，各校務部・家庭や関係機関との連携を図ったか。	④⑥	3.3					
	心の教育の充実に努める。	定期的に被害（いじめ）調査などを実施し，小さなサインを見落とさない体制を作ったか。	④	3.4					
各学年・教育相談部・保健室等との連携をはかり，生徒個々の密な情報交換に努めたか。		④⑥⑦	3.7						
進路指導	計画的・継続的な指導による進路意識の高揚。	計画的な進路ガイダンスにより，将来に夢や希望が持てる継続的な指導を図ったか。	③	4.3	4.1	基礎学力の強化。 学力データの集積と活用。 学年と連携した系統的な進路ガイダンスの実施。 「進路だより」の定期的な発行による情報提供。 データ管理の効率化と活用			
		各種適性検査のデータやワークシート等の活用を通して，各自の適性を知り職業観の定着を図ったか。	③	3.7					
		工場見学・インターンシップ等の実体験を通して，勤労や職業に対する見方・考え方の形成を図ったか。	③⑥	4.5					
	将来のスペシャリストとしての素養の熟成。	教科・学年と連携し，模擬試験等による系統的に学力が身に付く体制づくりをしたか。	①③	3.4					
		職業資格の奨励により，スキルアップ・職業意識の高揚を図ったか。	①②③	4.1					
	外部との連携の充実。	産業界や大学等との有効的なパートナーシップを築いたか。	⑥	4.0					
		保護者の計画的・継続的な進路啓発活動に努めたか。	⑥	3.9					
	情報提供の充実。	「進路情報誌」，「進路だより」の発行や求人票のPDF化により適確な進路情報の提供を行ったか。	③	4.5					
閲覧室の有効的な活用を図ったか。		③	4.2						

特別活動	自主性を育てる生徒会活動の活性化に努める。	体育祭を中心とした学校行事において、生徒会・各委員会活動の自主的活動の活性化を促したか。	⑤	4.0	4.1	生徒のより自主自立を目指す生徒会を構築する。
		生徒会新聞「志工」を行事ごとに発行し、生徒を通じ保護者等に校内の様子を知らせたか。	⑤⑥	4.5		
	学校行事を積極的に公表する。	校外ボランティア活動に積極的に参加することを勧め、地域とのつながりを密にしたか。	⑤⑥	4.5		
厚 生	学習活動に適した環境の整備と学校の安全の確保。	日頃の清掃活動及び行事等の前に実施する大掃除を充実したものにし、生徒の環境美化意識を高めたか。	④	3.8	3.8	日々の清掃の徹底。 他部長（学年等）との連携。
		学校保健安全計画に基づき、諸検査・安全点検・防火訓練等を実施したか。	⑦	3.8		
		奨学金等の事務処理を確実にを行ったか。	⑥	3.8		
	生徒の健康の維持・増進。	学校保健安全計画に基づき、健康診断や検診等を実施し、結果についてはクラス担任や保護者と連携して対応したか。	⑦	4.0		
		「保健便り」の発行や講演会を通じて、生徒の健康や衛生に対する意識の向上を図ったか。	⑥	4.0		
		保健室の円滑な管理・運営に努めたか。	⑦	3.8		
	心身に問題を抱えた生徒への対応。	インフルエンザ等の感染症については、学校医等の協力を得てその流行の防止に努めたか。	⑦	3.8		
生徒の保健室の利用状況を把握したか。		⑦	3.5			
図 書	図書委員会活動を活発にし、より良い図書館利用について話し合ったか。	図書委員会活動を活発にし、より良い図書館利用について話し合ったか。	①	4.0	3.8	図書委員会の活発な活動を推進する。
		生徒、教師の要望を満たすバランスのとれた図書選定をしたか。	①②	3.7		
		図書室内の美化や図書の配置、整備を考え利用しやすい環境を整備したか。	⑤	4.0		
	視聴覚室の活用。	各種講習会、授業等における視聴覚室の活用を推進したか。	①	3.3		
教育相談	心の教育の充実。	小さなサインを確実に把握するため、情報交換の充実を図ったか。	④	3.8	3.9	スクールカウンセラーとの連携や相談室利用の更なる推進。
		保健室、指導担当との連携を図ったか。	④	3.9		
渉 外	PTA本部役員を中心に支部を通して家庭との連絡を密にする。	PTA主催の行事への参加率を上げるため、本部役員と支部長との参加を促す連絡を密にしたか。	⑥	4.0	4.2	平成21年度のPTAと後援会の合併に伴い内規の見直し等を行う。
		PTA活動を意義あるものにするために、PTA新聞を年間2回発行したか。	⑥	4.3		
情 報	生徒、校外に向けた情報の配信に努める。	Date-Net、ホームページの内容を充実し、新しい情報を伝えたか。	③⑤	4.0	3.8	最新の情報発信に努める。
	生徒が学習するためのPC環境を整備する。	パワーポイントを利用したわかりやすい授業づくりを推進したか。	①	3.5		
活性化委員会	本校の教育活動を地域や中学校へ伝え活性化を図る。	公開実習を実施し、中学生やその保護者・教員に本校について理解してもらったか。	⑥	4.2	4.1	授業や学校行事とのバランスを考慮し、実施できるものは継続する。
		「県西生涯学習センターフェスティバル」や「下館商工祭」に出展し、地域に本校の活動内容のPRを図ったか。	⑥	4.1		
		中学生に向け「館工ニュース」を年4回発行し、本校の活動状況を伝えたか。	⑥	4.0		

第1学年	基本的生活習慣の確立を図る。	学年で定めた「1学年のテーマ」「日常の五訓」に基づき、学校での基本的生活習慣を確立したか。④⑥	3.8	3.8	基礎学力の向上を目指し各教科、学年の連携の場を設けることを望む。	
		生徒の動向に注意を払い、変化にすばやく対応、家庭との密な連絡・校内の関係部署等とも連携の上で、適切な指導を心がけたか。⑥	3.6			
	学力の向上を図る。	授業での熱心な取り組みや家庭学習の習慣化を訴え、基礎的な学力・知識を身につけさせたか。①	3.5			
		工業高校で取得可能な各種資格を紹介し、積極的な取得を促したか。②	4.1			
	希望進路の達成を目指し、自己の適性を見極められるようにする。	早くから目標設定を意識させ、その実現に向かって、LHRを利用した指導、進路指導部と連携した進路ガイダンス等を行ったか。③	4.0			
	生徒との面談指導を積極的に行い、生徒の意識や成長を把握し、適切な方向付けができるようにしたか。③	3.7				
第2学年	基本的生活習慣の確立を図る。	家庭との連携を図り、家庭での生活の乱れを防ぎ、学校での基本的生活習慣を確立したか。⑥	3.8	3.8	進路実現に対して満足感の得られるように努める。	
		生徒の動向に注意を払い、生徒指導部・教育相談部等と連携を図り、問題解決を図ったか。⑥	3.8			
		修学旅行等の学校行事において、集団行動の秩序を認識させるよう努めたか。⑤④	4.3			
		学校行事・生徒の学校生活の状況等を家庭に伝わるよう広報活動に努めたか。⑥	3.8			
	学力の向上を図る。	将来的に企業で必要とされる人材となるような学力、知識を身につけさせたか。①	3.6			
		工業高校で取得可能な各種資格の積極的な取得を促したか。②	3.6			
		普段から学習する習慣を身につけ、基礎学力の向上を図ったか。①	3.6			
	希望進路の実現を目指す。	生徒個々の希望進路を実現させるために、社会情勢・生徒の意識に対応した進路指導を行ったか。③	3.9			
		進路に対する意識を高めることを目的に、進路指導部と連携を図り、年3度のガイダンスを計画したか。③	3.8			
		インターンシップを通して、現代の社会情勢に対応した職業観を養ったか。③	3.6			
		進路実現のため面接・論文等の指導の機会を設けたか。③	3.6			
第3学年	基本的生活習慣の確立を図る。	遅刻、早退、欠席が生じた際は、必ず家庭に連絡し生徒の状況等の把握に努めたか。⑥	3.8	3.8	基礎学力の定着および学習をする習慣の確立に努めたい。	
		授業や集会においても正しく挨拶をさせ、挨拶の習慣化を図ったか。④	4.1			
		学年集会等で交通事故のゼロを呼びかけるとともに命の尊さを説くように努めたか。⑦	4.0			
		生徒指導部と連携し、頭髪、服装の指導を徹底したか。④	4.2			
		生徒の様子を察知し、教育相談部と連携をとり事故問題防止に努め、家庭への連絡も行う。特に進路決定後気をつけたか。⑥	3.8			
		学校・学年の方針等を盛込んだ学年便りを年6回発行したか。⑤	4.0			
		登校後の時間を利用して「朝自習」でドリル学習を行い、学習の習慣化を図ったか。①	1.9			
	学力の向上を図る。	各種資格取得に積極的に取組ませ、合格者数を増やせたか。②	4.0			
		希望進路の実現を目指す。	進路に対する意識を高めることを目的に、進路指導部と連携を図り、進路ガイダンスを計画したか。③			4.1
	生徒と保護者との面談や連絡を密にし、個々人の希望進路を把握し実現に努めたか。③④		4.1			
	進路実現のため面接・論文等の指導の機会を設け、面接・論文のスキルを身につけさせたか。③		4.2			
			進路指導部と連携し、生徒の情報や進路先の情報を交換したか。③			4.0

※評価基準 5:大変よくできた 4:よくできた 3:ふつう 2:やや不十分 1:不十分